

<p>平成 29 年 8 月 31 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>9 月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

農薬は、専用の保管庫に鍵をかけて適切に管理しましょう。
～平成 29 年度茨城県農薬危害防止運動期間中(6/15～9/14)～

＜ 目 次 ＞

<p>I. 今月の予報</p> <p>【注意すべき病虫害】</p> <p>大豆：べと病，吸実性カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>共通害虫：オオタバコガ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2</p> <p>【その他の病虫害】</p> <p>大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，果樹共通，促成トマト，秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫・・・ 3</p> <p>II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5</p>	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p style="text-align: center;">茨城県病虫害防除所 Tel : 0299-45-8200</p> <p style="text-align: center;">予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p style="text-align: center;">ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

大豆

1. べと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在, 「納豆小粒」における発病度* (本年値 22.5, 平年値 10.0), 発生地点率 (本年値 100%, 平年値 72%) とともに平年より高い。
- ② 8月下旬現在, 「里のほほえみ」における発病度 (本年値 20.8), 発生地点率 (本年値 100%) とともに納豆小粒と同程度である。
- ③ 8月下旬現在, 「タチナガハ」における発病度 (本年値 0.8, 平年値 0.2), 発生地点率 (本年値 25%, 平年値 9%) とともに平年より高い。

※発病度: 病斑をもとに算出した数値, 最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期からの薬剤防除を徹底する。
- ② 薬剤は, 薬液が葉だけでなく莢にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。
- ③ 発病程度は品種による差が大きく, 「納豆小粒」および平成 27 年に認定品種に採用された「里のほほえみ」は, 「タチナガハ」に比べて発病しやすい傾向にある。

2. 吸実性カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在, 寄生虫数 (25 株あたり) は平年よりやや多く (本年値 0.8 頭, 平年値 0.5 頭), 発生地点率は平年より高い (本年値 46%, 平年値 21%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 薬剤防除は莢伸長期以降, 発生に応じて 7~10 日ごとに複数回行う。
- ② 成虫は子実を加害しながら, 葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため, 幼虫の発生状況にも注意する。
- ③ 薬剤は, 薬液が葉だけでなく莢にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。特に, 圃場の周縁部は生息密度が高い傾向にあるため注意する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 直近1か月間（7月26日～8月25日）のフェロモントラップへの誘殺数は、土浦市で平年よりやや多く、県予察圃（水戸市、笠間市）で平年並、龍ヶ崎市で平年よりやや少ない。
- ② 8月下旬現在、大豆およびナスの一部圃場で発生を確認している。

[防除上注意すべき事項]

- ① 施設栽培ではハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ② 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。なお、防除適期はフェロモントラップへの誘殺数が増加したときなので、誘殺状況（病虫害防除所ホームページ）を参考にする。
- ③ 薬剤は、葉裏にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、定植時および結球始期の防除を徹底する。
- ⑤ トマト、ピーマン等では収穫終期まで加害が続くので、発生している圃場では防除を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	葉焼病	発生量: やや多い～多い	8月下旬現在, 平年よりやや多い～多い発生である。
	紫斑病	発生量: -	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は, 開花期の30日後に追加防除を行う。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量: 平年並	8月下旬現在, 平年並の発生である。
ナシ	黒星病	発生量: -	8月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。多発した圃場では, 秋季防除を徹底する。特に, 徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ナシヒメシンクイ	発生量: 平年並	8月下旬現在, 平年並の発生である。早生・中生品種に被害果が目立った場合は, 晩生品種を対象に, 収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量: 平年並	8月下旬現在, 平年並の発生である。多発している圃場では, 秋季, 休眠期および翌春の防除を徹底する。
ブドウ	褐斑病	発生量: 平年並	8月下旬現在, 平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため, 落葉処理を徹底し, 粗皮はぎを行う。
	さび病	発生量: 平年並	8月下旬現在, 平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため, 落葉処理を徹底する。
	べと病	発生量: 平年並 ～やや少ない	8月下旬現在, 平年並～やや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため, 落葉処理を徹底する。
	晩腐病	発生量: -	8月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため, 罹病した果梗の切り残し, 結果母枝, 巻きひげ等は剪除し, 適切に処理する。
果樹共通	果樹カメムシ類	発生量: 平年並	8月下旬現在, 平年並の発生である。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成 トマト	黄化葉巻病	発生量：－	8月上旬現在，抑制トマトの一部圃場で発生を確認している。媒介虫であるタバココナジラミの防除対策等を徹底する。
秋冬 ネギ	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
夏秋 ナス	うどんこ病	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
共通 害虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 9月2日から10月1日)

気象庁(8月31日発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

<1週目の予報> 9月2日(土曜日)から9月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率60%

<2週目の予報> 9月9日(土曜日)から9月15日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 9月16日(土曜日)から9月29日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類^{*}(FRACコード, IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。